

Ⅲ 共同利用研究

1. 概要

昭和57年以来、研究課題として「計画研究」並びに「自由研究」を併置し、昭和62年度には「資料提供」を設置した。さらに平成6年度から「所外供給」を新たに設置し、これらに係る共同利用研究が実施されている。「計画研究」とは、本研究所内推進者の企画に基づいて共同利用研究者を公募するもので、個々の「計画研究」は3～5年の期間内に終了し、まとめた成果を公表する。「自由研究」とは「計画研究」に該当しないプロジェクトで、応募者の自由な着想と計画に基づき所内対応者の協力を得て、継続期間3年を目処に研究が実施されている。「資料提供」とは、資料(体液、臓器、筋肉、毛皮、歯牙・骨格、排泄物等)のみを提供する共同研究として実施されている。「所外供給」とは、本研究所以外の研究機関で行うことがより適切な研究のために、生体のサルを所外に供給するものである。

平成6年度の計画課題、応募並びに採択状況、研究会等の概略は以下のとおりである。

(1) 共同利用研究課題

A. 計画研究(カッコ内は課題推進者。下線は代表者)

1. ニホンザル地域個体群の動態と保護管理

[実施予定年度 平成4年度～6年度]
(渡邊邦夫, 東 滋, 鈴木 晃)

ニホンザル地域個体群の動態を環境要因や個体数との関連で総合的に把握する。特に最近各地で報告されるようになった猿害問題や人慣れの進行などの実体を把握することから、ニホンザル地域個体群の保護管理のための方策を探る。

2. ニホンザルの個体数、地域特性、環境要因の定量的把握

[実施予定年度 平成5年度～7年度]
(杉山幸丸, 川本 芳, 後藤俊二, 山極寿一)

1. 採食量と環境許容量の把握。2. 個体数パラメータとその変動要因の把握。3. 生物的、環境的特性をふまえた(餌付けを含む)ニホンザル

の多様性の質的、量的把握。4. 地域的、全国的視野でのニホンザル個体数の変動要因の解明。等、比較検証の可能な定量的把握を必須条件とする。

3. 霊長類における社会場面の状況認識と行動戦略

[実施予定年度 平成4年度～6年度]
(森 明雄, 大澤秀行, 渡邊邦夫, 山極寿一)

霊長類の行動には第三者の存在や相手個体の次にとるであろう行動を予想したような振る舞いが数多く認められる。他個体に対するごまかしやだまし、宥和行動や第三者への行動転嫁など、社会的な操作を伴った行動の分析を通じて、彼等自身の社会認識のありようを探る。

4. 霊長類の社会関係と脳進化

[実施予定年度 平成5年度～7年度]
(澤口俊之, 中村克樹, 三上章允, 久保田競, 大澤秀行)

霊長類の社会関係と脳の大きさや機能、構造との関係を社会生態学、神経科学、心理学、進化生態学など多方面から解析し、社会関係と脳進化の関係を総合的に明らかにする。実証的な研究の他に理論的な研究(数理モデルやシミュレーションなど)も積極的に行う。

5. 霊長類の認知と学習

[実施予定年度 平成4年度～6年度]
(松沢哲郎, 藤田和生, 友永雅己, 小嶋祥三)

霊長類の知覚や認知機能とそれに関連する学習行動の特性を実験的に分析し、ヒトの資料と比較して考察する。模倣や注意、異種感覚間統合、表象や概念の形成、個体や種の認知、コミュニケーション、など高次の情報処理を主として扱う。

6. 霊長類の知覚特性の比較心理学と神経科学的基礎

[実施予定年度 平成4年度～6年度]
(藤田和生, 三上章允, 友永雅己)

主として形や色や運動その他の知覚、及びそこに見られる錯覚や恒常現象、残像現象などを動物心理物理学的手法や神経科学的手法により実験的

に解析し、霊長類の知覚特性とその進化を考察する。

7. 霊長類の老化に関する研究

[実施予定年度 平成4年度～6年度]

(小嶋祥三, 松林清明, 鈴木樹理, 木村 賛, 景山 節, 中村 伸, 林 基治, 野崎眞澄, 中村克樹)

霊長類の老化に伴う身体の構造・機能, さらに認知機能の変化を明らかにするために, 解剖学, 組織学, 内分泌学, 免疫学, 生殖生理学, 神経科学, 生化学, 心理学など多方面から総合的に検討し, サルにおける老化の基本像を探る。他の動物種とも比較しながら, サルの老化の特性を明らかにし, モデル化を試みる。

8. 霊長類頭蓋部の比較形態学的研究

[実施予定年度 平成6年度～8年度]

(相見 満, 高井正成)

霊長類頭蓋部の硬組織を中心に, 比較形態学的な立場から研究を行い, 現生及び化石霊長類の系統関係の解明に努める。

9. 霊長類軟部の比較形態学

[実施予定年度 平成4年度～6年度]

(木村 賛, 毛利俊雄, 國松 豊)

霊長類軟部形態を巨視的及び微視的両面より比較検討を行う。系統発生的観点及び機能的観点より, 霊長類形態の適応と進化について考察する。

10. 霊長類の臓器特性に関する生理・生化学的アプローチ

[実施予定年度 平成4年度～6年度]

(景山 節, 浅岡一雄, 林 基治, 鈴木樹理)

霊長類の諸臓器の酵素, 代謝産物, 生理活性物質等の性状, 動態を生理・生化学的手法を用いて解析する。他の動物と比較しながら, 霊長類の臓器の特性を明らかにしていく。

11. 霊長類の比較遺伝子マッピングと染色体進化理論に関する研究

[実施予定年度 平成6年度～8年度]

(平井啓久, 庄武孝義, 川本 芳, 相見 満)

ヒトとその他各種霊長類間の遺伝子あるいは特定DNAの比較マッピングを行い, 染色体上の位

置関係を把握する。一方, 核型およびC-バンドパタンの数量的解析に基づき, 霊長類の染色体進化の方向性及び染色体変異と種分化との関連を理論的に探る。

12. 霊長類の生体防御系と疾病・病態に関する研究

[実施予定年度 平成6年度～8年度]

(中村 伸, 松林清明, 後藤俊二)

霊長類の免疫-止血系を含めた種々生体防御機構, それら生体防御反応系の異常に基づく疾病・病態ならびに関連研究について, 基礎から臨床に至る幅広い研究を進める。これらの研究を通じて, 生体防御や疾病の面からの霊長類の種特性, 適応・進化, 実験動物化等も検討する。

B. 自由研究 (計画研究に含まれない研究課題)

C. 資料提供

D. 所外供給

(2) 応募および採択状況

平成6年度のこれらの研究課題について, 101件(158名)の応募があり, 運営委員会共同利用研究専門部会(浅野俊夫, 和 秀雄, 丸橋珠樹, 石田英實, 竹中 修)並びに共同利用研究実行委員会(澤口俊之, 杉山幸丸, 毛利俊雄, 浅岡一雄, 友永雅己)との合同会議において採択原案を作成し, 協議員会(平成6年2月9日)の審議・決定を経て, 運営委員会(平成6年2月21日)で了承された。

その結果, 96件(151名)が採択された。各課題についての応募・採択状況は下記のとおりである。

| 課題 | 応募 | 採 択 (*) |
|-----|-----------|----------|
| 計画1 | 2件 (3名) | 2件 (3名) |
| 2 | 4件 (10名) | 3件 (9名) |
| 3 | 2件 (2名) | 2件 (2名) |
| 4 | 3件 (4名) | 2件 (2名) |
| 5 | 4件 (4名) | 4件 (4名) |
| 6 | 4件 (6名) | 3件 (4名) |
| 7 | 6件 (9名) | 4件 (5名) |
| 8 | 1件 (1名) | 0件 (0名) |
| 9 | 10件 (20名) | 9件 (18名) |

| | | |
|----|----------|----------|
| 10 | 3件(4名) | 2件(3名) |
| 11 | 4件(5名) | 4件(5名) |
| 12 | 5件(10名) | 5件(10名) |
| 自由 | 46件(71名) | 41件(60名) |
| 資料 | 7件(9名) | 15件(26名) |
| 所外 | 0件(0名) | 0件(0名) |

(3) 研究会

平成6年度は、以下のとおり5件の研究会が採択・実施された。

1. 行動パターンの発達：長期継続研究から見えてくるもの。
2. 染色体と肉眼形態からみた霊長類の進化
3. ニホンザルの個体数、地域特性、環境要因の定量的把握
4. 第3回類人猿研究会
5. 第24回ホミニゼーション研究会
「道具使用と文化の発生」